

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

公表: 令和3年5月1日

		チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点、課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	82%	18%		手狭であっても、対利用者を考慮したスタッフの配置を行い、一つのスペースに固まらないようバランスよく空間を使えるよう意識している
	2	職員の配置数は適切である	100%			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	91%	9%		トイレには手すりがあり、バリアフリー化している
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	82%	18%		
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	91%	9%		周知できていない項目など、随時改善に努めている
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	82%	18%		公開している
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	36%	36%	28%	第三者による外部評価は行っていないので、今後検討したい
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	73%	18%	9%	コロナで研修は資料配布のみとなっているので、人数を制限して実施していきたい
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	82%	18%		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	73%	18%	9%	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	82%	9%	9%	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	82%	18%		コロナ禍でプログラムが制限されてるが、意見を出しあいより一層工夫をしていきたいと思う
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	73%	27%		休日や長期休暇などには、フルート奏者による演奏や人形劇、公園での活動などを行っている
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	91%	9%		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	82%	9%	9%	支援ノートを通して利用者情報の共有を行っている
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	82%	9%	9%	情報ノートを通して共有している
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%				

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	91%	9%		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	82%	9%	9%	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	82%	9%	9%	参加している
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	82%	18%		お迎え時に情報共有を行っている
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	91%		9%	整えている
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	82%		18%	随時行っている
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	91%	9%		今年は2名の卒業生がいるので、次のステップのための生活介護事業所を4月より開業する。本人のみならず保護者にも安心していただけるような組織づくりを行っている
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	73%	9%	18%	相談支援員より助言や情報共有を行っている
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	18%	73%	9%	コロナ禍のため制限があるが、地域活動の際は交流があった(こども食堂等)
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	55%	36%	9%	できる限り参加している
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%			
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	64%	18%	18%	無理強いすることのないように、保護者の状況を考慮したうえで助言を行っている	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	82%	9%	9%	契約時に行っている
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	55%	27%	18%	コロナ前は、ヨガや英会話等イベントを通して、保護者同士の連携を行っていた
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	91%		9%	ホームページやインスタを通して日々発信している

	35	個人情報に十分注意している	100%			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	73%	18%	9%	コロナが収束すれば、オープンな事業所でありたいと考えている
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	82%	18%		保護者への周知徹底を引き続き行っていく
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%			定期的に行っている
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	82%	9%	9%	研修は設けているが、コロナのため資料配布にとどまっている
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	73%	18%	9%	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	73%	18%	9%	現在は該当者なし
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	82%	9%	9%	作成しているが、パートさんを含めさらに周知徹底したい

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。